

特別な空間の中心に立つ

(株)松田組 清水 冴香

私は3年前に、「特別な空間」という題名で施工管理技士2年目の心情や志望動機を綴りました。その作文に私は「特別な空間の中心に立ち続けたい」と最後を締めました。その言葉は、自身の未来への期待を込めた言葉でした。そして私は今、「特別な空間」の中心に立っています。中心とはいわゆる現場所長です。

私は資格を取得し、3年目の夏に初めて現場所長として現場に配属しました。

「まだ3年目やのにもう所長なんや。」と、嬉しい気持ちよりも不安な気持ちが勝っていました。その不安は現場が進むにつれて、現場を重ねるにつれて消えていくのではなく、大きくなっていました。所長の責任の重さや、しなければならないことの多さに、ついていくことが出来なかったためです。

そんな不安な気持ちが大きくなっていてもまだ、私が施工管理技士を続けられているのは、やはりこの仕事が好きであり楽しいからです。5年目で、様々な現場を経験していますが、どの現場に行っても新しい発見があります。以前は気づかなかったことや、理解できなかったことが出来るようになり、現場を進めることが出来るようになっていくことで自身の成長を感じています。

現場を重ねるごとに、不安が大きくなっていくとお伝えしました。現場所長になりたての頃は人に頼ってばかりでした。現場を重ねるにつれ、人に頼るのではなく、現場所長として、現場の中心に立つ者として、頼るのではなく、頼られる存在にならなければならないと思うようになりました。そのように思うようになってから、どのようにするのが良いのか考えるようになり、正解を見つけることに様々なことに挑戦しなければならないため、不安は募るばかりです。ですが、まだ若手と言ってもらえることが出来る、今しか聞けないことを聞き、相談し成長したいと思っています。

現在、弊社には女性の施工管理技士は私しかいません。私の入社前には1、2名いらっしゃったそうなのですが、お会いしたことはありません。入社当時は、相談相手

がないため、すぐ辞めるだろうと思っていました。上司や先輩にも「すぐ辞めると
思っていた。」と後々言われました。建設業は男性社会であり、女性が活躍されている
のは珍しい業界です。女性には必ずではありませんが、結婚・出産・育児があります。

「もし、工事期間中に妊娠をしてしまったら。」「もし、保育園に預けている子ども
が熱を出してしまったら。」「もし・・・」と多くの不安があります。女性の施工管理技
士は弊社には私しかいませんが、近年、他部署では女性社員が増えました。それに伴
い、就業規則の改訂が行われました。女性目線の内容や、現在の働き方改革に沿った
内容が組み込まれました。女性の社会進出は不安がありますが、社会や会社が今の時
代ににあった環境づくりを行ってくれています。まだまだ辞めずに施工管理技士を続
けられそうです。

仕事は楽しいことばかりではありません。体力的・精神的に辛くなる時があります。
日中は現場に出たっきりで、暑さや寒さに体力を奪われます。責任の重さを辛く感じ
ることがあります。でも、建設業ではそんな辛さを超える達成感を気持ちだけでなく、
体全体で感じる事が出来ます。地図に残る現場だった場合はもっと嬉しい気持ちを
得ることが出来ます。

私が嬉しいと一番感じる時は、言葉を貰った時です。利用者の方からの「ありがと
う」「綺麗になったねー」や、協力業者の方からの「また次の現場で会おうな」、会社
の上司や先輩からの「よく頑張りました」といった言葉を頂いた時に、次も頑張ろう
と思えます。褒められて伸びるタイプなので。

まだまだ不安が多く、気持ちが落ちることもありますが、楽しんで成長し、私はこ
れからも「特別な空間」の中心に立ち続けます。